

DX Digital Transformation

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変更させることで、自治体においては、ICTを活用し、「市民の利便性向上」や「業務プロセスの再構築」を行うことです。

まちを変える 未来が変わる

☎ICT政策課 ☎・☎(582)1124 ☎(583)9444

デジタル技術を活用して、まちの活性化へ

本市では、市内経済の活性化を目的とした「守山市中小企業等デジタル化促進補助金」で事業者のデジタル技術を活用した販路開拓や事業の効率化につながる取り組みにかかる経費の一部を補助しており、市内事業所(店舗)から44件の申請を受け付けました。

今回は、同補助金を利用して新たなデジタル技術を導入した2事業者を紹介します。

老舗ならではの「やりたいこと」に挑戦したい

朝日屋セトモノ店 ～AIタグガーを導入～

朝日屋セトモノ店は中山道守山宿沿いでセトモノや日用雑貨、商材などを販売する卸小売店です。

当店は大手通販サイトにオンラインストアを開設しています。タグの重要性は理解しているつもりでしたが、家族経営の店なので人員不足で細かなタグ付けまで手が回らずにいました。タグが付いていなくても出品はできますが、消費者に商品を見てもらう機会が少なくなります。そこで補助金を受けてAIタグガーを導入することにしました。

導入から2ヵ月ほどですが、パソコンから写真と商品の登録をすると、AIが登録内容から抽出して細かなタグを付けてくれるので、オンラインショップのアクセス数が増えています。売り上げも2割ほどアップしました。有望な投資だったと実感しています。

朝日屋セトモノ店は天保2年(1831年)に創業しています。屋号に「セトモノ」が付いているのに、オンラインショップでは消耗品などの出品が9割です。将来的にはセトモノの出品も増やしていきたいと思います。守山宿に昔ながらの店舗を構えながら、将来性のある仮想空間だからこそできる「やりたいこと」に挑戦していきたいと思います。

AIタグガー：ECモールに出品している商品の色や規格など細かなタグ付けをしてくれるAIシステム



取締役6代目の朝日 潤さん



インタビューの様子

来てくれた人に安全と居心地の良い時間を

そらいろ ～POSレジを導入～

そらいろは、銀座通りにある、地元の季節野菜を使った創作料理の飲食店です。

開店から15年。時代の流れで、各社クレジットやバーコード決済などの支払い方法、さまざまなクーポン使用など、飲食店の利用も多様になっています。スタッフの手間も軽減できてお金の流れも管理できるシステムは、お店にもお客さまにも良いと思い導入を検討していました。そこで、今回、補助金を受けて実際に導入することにしました。

まだ導入から1ヵ月なので、使い慣れずに慌てることがあります。しかし、会計や経理などスタッフの負担が軽減できた時間や手間を、お客さまや店のために使えるようになってきました。コロナ禍の打撃は今も続いているですが、だからこそ、来てくれた人の安全や接客に心を尽くせる時間ができて良かったと思っています。

POSシステムには、会計時の情報を蓄積して分析できる特徴があります。これからデータが蓄積されていけば、これまでの記憶や経験が頼りだった曖昧な顧客情報をしっかり把握して、お客さまに心地よく過ごしてもらえる接客につなげていきたいと思っています。

POSレジ：会計時に売れた商品などの情報を蓄積し、分析や管理ができるシステム搭載のレジ(端末)



POSレジ操作



尚井 剛生さん、桑見子さん

上記補助金については☎商工観光課 ☎・☎(582)1131